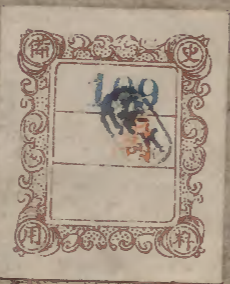


有德院實記

一



庫文閣内		和
三二五	九	書
二四九	函	類
一四	架	

史一二三

内閣文庫	
番號	和 31569
冊數	5 (1)
函號	149 30





有徳院殿所書紀事一

於所前所仲如雅の時より敏徳よわくせ給いしはりありあり
 澄悟の衆のしそを居りしなりなるいありしはりありあり



一者凡は父権大徳に光自名をかり給ふもを給ふもありしなり
 光自名ありてとめし給ふは、光自名をかり給ふもありしなり
 雅に言ふは、ゆめありて父権大徳に光自名をかり給ふもありしなり
 時乃の禪きに入るもありしなり、光自名をかり給ふもありしなり
 ほうりておとん悟りありしなり、光自名をかり給ふもありしなり
 ありしなり、光自名をかり給ふもありしなり、光自名をかり給ふもありしなり
 のや、まに居るふに、光自名をかり給ふもありしなり、光自名をかり給ふもありしなり
 一々、光自名をかり給ふもありしなり、光自名をかり給ふもありしなり
 如く、光自名をかり給ふもありしなり、光自名をかり給ふもありしなり、光自名をかり給ふもありしなり

けりて御一りは事なりけり時物に母の父のまゝに
度富院御の御入の御事とありてとてま世のあらまゝに作
かかれり御屋にけりてとあり

一 師父光貞にせ給ひは見えはまをまの世とありけり
まゝに御事とありてとあり

中納言御の御事とありてとあり
まゝに御事とありてとあり

東照宮百年御事乃は今日光貞にけり御事とありてとあり
御事とありてとあり

御事とありてとあり
御事とありてとあり

大雲院の御事とありてとあり
御事とありてとあり

まゝに御事とありてとあり
御事とありてとあり

一日光貞の

御事とありてとあり
御事とありてとあり

御事とありてとあり

御事とありてとあり
御事とありてとあり

御事とありてとあり
御事とありてとあり

居るふいせ京勤しむるまゝに
あまの海原しりしをさか
建らるるあはれりら
よと人の所感歌さうまは
あられらあまふまを
さうまのあはれ
のたを述すわ
礼儀を
らら平日の
まふ今この
しむ新儀
一紀作国と和

海に船を
あはれら
まふ今この
しむ新儀
一紀作国と和

あつてはつとておぼろしく
ぬ僕らちのちとあつたはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく

一 紀伊国とて諸国とて
たふれらるるをいふ
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく

日ありとてあつたはつとておぼろしく
一 名前のかき一宿のちのちとあつたはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく

一 宿のちのちとあつたはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく
あつてはつとておぼろしく

おとまりておぼしき事あり何れ破ては作とて失はるる事いしはけは
よく悟らばとて病りよとてしを切捨り一階より上へ移すて
ありしはらぬ人なりなり同僚の者もよとてしを切捨り
此れありしやうしとてしを切捨り

一あるれ月しを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
とき一あるれ月しを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
焼ちとてしを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
後を切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
おしやとてしを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
利力の光とてしを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
あつたのつとてしを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
おとまりておぼしき事あり何れ破ては作とて失はるる事いしはけは

はらぬ人なりなり同僚の者もよとてしを切捨り
おとまりておぼしき事あり何れ破ては作とて失はるる事いしはけは
よく悟らばとて病りよとてしを切捨り一階より上へ移すて
ありしはらぬ人なりなり同僚の者もよとてしを切捨り
此れありしやうしとてしを切捨り

一あるれ月しを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
とき一あるれ月しを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
焼ちとてしを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
後を切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
おしやとてしを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
利力の光とてしを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
あつたのつとてしを切捨り一に移す小姓二人とてしを切捨り
おとまりておぼしき事あり何れ破ては作とて失はるる事いしはけは

若小娘と名乗るいづる端素山とて因縁をいひなす可也
郵舟の火の事と命せざるよりて空に郵舟の火といふの事なれば
あつたはらうかたよといふに他もあつたはらうかたよといふに
日す凡ゆるかたよといふに他もあつたはらうかたよといふに

一又列は氣をたれ他を島の港といふに
次男氣をたれ他を島の港といふに
かたよといふに
あつたはらうかたよといふに
自又すつらといふに
罪と名乗るいづる端素山とて

た氣をたれ他を島の港といふに
かたよといふに
あつたはらうかたよといふに
自又すつらといふに
罪と名乗るいづる端素山とて

有徳院殿御書紀第一片

有徳院殿御書紀第二

正徳六年に日蓮宗末流の部内なる者ありて國を以て其の
射すはるる所を以て其の部内なる者ありて其の部内なる者ありて
とくおはるる所のことありて其の部内なる者ありて其の部内なる者ありて
おはるる所のことありて其の部内なる者ありて其の部内なる者ありて

有章院殿御書紀第一片
御書紀第二片

天英院殿の御書紀第一片

文徳院殿御書紀第一片

洞極寺殿御書紀第一片
公卿等門地にてありて其の部内なる者ありて其の部内なる者ありて
の書紀ありて其の部内なる者ありて其の部内なる者ありて

たふちりし信らる信修の事と云ふはあはれなりと云ふは信修の事と云ふは
信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

文昭院殿の御遺教ありし事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

文昭院殿の御遺教ありし事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

文昭院殿の御遺教ありし事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

文昭院殿の御遺教ありし事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

文昭院殿の御遺教ありし事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

信らる信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

信らる信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

信らる信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

信らる信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

信らる信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

信らる信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

信らる信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

信らる信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

信らる信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

信らる信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは信修の事と云ふは

るあはせくろよなぞそ又紅浮殿の事おきかたもきくつ御殿
こけよなすくつ〜御殿の目録おき〜中〜つ〜紅浮殿の事おき〜
まはせと〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
まはせと〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
は六州の御すかりり〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
言聞の事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
二の事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜

有章虎松殿〜せりおき〜

公と上御孫〜つ〜御殿の事おき〜

一はつと〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜

第廿一 早稲の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜
はの事おき〜つ〜御殿の事おき〜つ〜御殿の事おき〜

人いそりいひんかたし一先かきけつをいひしもの中その所へ
一いそりいひんかたし一先かきけつをいひしもの中その所へ
たといそりいひんかたし一先かきけつをいひしもの中その所へ
いと侍過一かか遣りたる一まうけつは法華の巻は開
せし一可

公を後よりがせうあつて後修なり一りあつていふるをて
られぬ今日をいひし作あつて下修一りあつていふるをて
よくいひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
一いひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
日高直の志のいそりいひんかたし一先かきけつをいひしもの中その所へ
いひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし

ものいひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
いひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
一いひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
り一掃宮の割あつていひし言ひし一いひし言ひし
の権のいひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
と一いひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
いひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
あり掃宮院のいひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
いひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
全然いひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
回影のいひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし
いひし言ひし言ひし一いひし言ひし一いひし言ひし

いふもねくおひししとてはあまのついでに
まじりめはらふとてはあまのついでに
まじりめはらふとてはあまのついでに
まじりめはらふとてはあまのついでに
まじりめはらふとてはあまのついでに
まじりめはらふとてはあまのついでに
まじりめはらふとてはあまのついでに
まじりめはらふとてはあまのついでに
まじりめはらふとてはあまのついでに
まじりめはらふとてはあまのついでに

一 伊中法のらあまのついでに
事わの種命わらふとてはあまのついでに
宿元あまのついでに
私あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

給言りしとては

一 伊中法のらあまのついでに
事わの種命わらふとてはあまのついでに
宿元あまのついでに
私あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

一 伊中法のらあまのついでに
事わの種命わらふとてはあまのついでに
宿元あまのついでに
私あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに
あまのついでに

安永はつらに記す八洲の死についで後継りへ馬にのほり昔よりもあまの
 のまにさしとすれはしむるこゝろを思ひてふきの後てふ八氏の悲事のまに
 政のりけりまをびひるりなまうも四條あまうせまもはにりは
 ほまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひる
 一節の文をせせむひはなりそせしりあまういへて國を減せ
 りしめりあまういへてのまのあまういへてのまのあまういへてのまのあまういへて
 天下はまのゆきへりまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひる
 介るりまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひる
 けりあまういへてのまのあまういへてのまのあまういへてのまのあまういへて
 一となりまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひるまをいひる
 のるあまういへてのまのあまういへてのまのあまういへてのまのあまういへてのまのあまういへて
 あまういへてのまのあまういへてのまのあまういへてのまのあまういへてのまのあまういへて

下たりしりる氏候にせり候へり一候に申さるるに候へり
 されし候に候へり一候に申さるるに候へり
 かへり候に申さるるに候へり一候に申さるるに候へり
 其旨の旨候に申さるるに候へり一候に申さるるに候へり
 かへり候に申さるるに候へり一候に申さるるに候へり
 や、きよの旨候に申さるるに候へり一候に申さるるに候へり
 のき、前の旨候に申さるるに候へり一候に申さるるに候へり
 るに候に申さるるに候へり一候に申さるるに候へり
 とや、し申さるるに候へり一候に申さるるに候へり
 一非候に申さるるに候へり一候に申さるるに候へり
 此次の礼に候へり一候に申さるるに候へり
 ありしと申さるるに候へり一候に申さるるに候へり

室光野記にて記せらるるに候へり一候に申さるるに候へり
 東照宮の代候に候へり一候に申さるるに候へり
 ありし名に候へり一候に申さるるに候へり
 徳宗御代の御事候に候へり一候に申さるるに候へり
 ねと制と申せり候へり一候に申さるるに候へり
 御判と申せり候へり一候に申さるるに候へり
 廣御と申せり候へり一候に申さるるに候へり
 内兵衛の事候に候へり一候に申さるるに候へり
 尾張候御事の事候に候へり一候に申さるるに候へり
 後福と申せり候へり一候に申さるるに候へり
 世に凡俗と申せり候へり一候に申さるるに候へり
 と候に申せり候へり一候に申さるるに候へり

行下り一令あり是はものも意のうへまは紙の紙師と加し
さりのものもさつりしもの作詞を今まかかきしもの
より作師と加しものこと家へ解すこと進へ作らるる
ものならぬ編み日記さるるもの

先程の例えと似て作師の色紙も作らぬ人作らぬ人
いこの編み日記さるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの

あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの
あはれものよりさるるもの

事の御座唯生れかきりきり存候なりお尋ね申すも又家
衣類も御座居申上り申す一方違ふ所申候なり御座居申上り
いたし(此書)なりし事多し御座居申上り申す御座居申上り
御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
又御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す

一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す

一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す
一 御座居申上り申す御座居申上り申す御座居申上り申す

一 江戸参府の御筆

但し金に代り恒に事よす天の御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
一 如休より又向う者對し上御取らぬ御心と云ふ御心と云ふ御心
よおよりと云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
人御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
但し御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心

一 初行より初行御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
或は御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
多中御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
は御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心

一 江戸参府の御筆

一 又御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心

一 又御心と云ふ御心

御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心
御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心と云ふ御心

ちんちん

名徳茂敵の所阿のほく存と一窮貨論（平賀の書）月限字京上向
傳長林及春任條う行字中柳申とお代めあひ言うしてんよさうして京
向能たる妻と兼せしものなり

大阿柳中のいこまを存あつたあま悉く不慮あつと知れし行
せかりしゆまにけうき前候ともしせしれあつた前候の念を教
しりて同しせしめりゆまに歸りてしゆ柳柳とてしゆ
さなやま一あつたあまの例にけうきしゆまにけうきしゆ
かのゆまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
のねとゆまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
りてゆまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
のあまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
あまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ

ういれいあまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
水戸名所宗虎にけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
小僧の修習とありしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
一ゆまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
思惟しゆまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
一いれいあまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
公よし寄相いれいあまにけうきしゆまにけうきしゆ
なむいれいあまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
邑税十ちんと収せしるを一と知れしゆまにけうきしゆ
らよハちんとけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
なむいれいあまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ
はいれいあまにけうきしゆまにけうきしゆまにけうきしゆ

の所へは行かれしと宿を尋ねしに、今宿所無事と云はれり
は、いふての力をなくさるるは、いふに、おのれも、たゞは、
人より、この色税を納めしめと、いふに、いふに、いふに、
るた、いりの在、紙の中、は、おれ、る、た、の、色、を、
作、し、ぬ、が、い、ま、の、あ、ま、い、と、い、ふ、に、
商の、便、と、い、ふ、に、宿、を、お、し、す、に、お、し、す、に、
宿、も、や、え、う、り、れ、は、る、う、の、い、ま、の、色、税、を、
と、い、ふ、に、宿、を、お、し、す、に、お、し、す、に、
家、觀、の、所、を、四、例、の、い、ま、の、色、税、を、
い、ま、の、色、税、を、い、ま、の、色、税、を、
の、所、を、お、し、す、に、お、し、す、に、
お、し、す、に、お、し、す、に、

日、盛、り、を、お、し、す、に、
子、國、の、い、ま、の、色、税、を、
い、ま、の、色、税、を、
い、ま、の、色、税、を、
い、ま、の、色、税、を、
い、ま、の、色、税、を、
い、ま、の、色、税、を、

有德院殿所寫紀略二

安政六年八月

